

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪精神医療センター

Osaka Psychiatric
Medical Center



2020
issue

We promise you

Osaka Psychiatric Medical Center

Mental Health for All

すべての人に心の健康を

- 大阪精神医療センターは、大阪府の基幹精神科病院として、高度な専門的知識、技術をもとに、患者さまの権利を尊重し一人ひとりの人生を大切にした、心のこもった質の高い医療サービスを実現します。
- 大阪府の基幹病院として、精神医療のセンター機能を果たします。
- 患者さまの権利を尊重し、安心と信頼を与える質の高い医療を行います。
- 他の医療機関との連携を強め、地域医療の向上に貢献します。
- 社会復帰と自立を支えるための基盤整備に努めます。
- 安定した経営基盤の確立に努め、良好な医療サービスを提供します。
- 地域に親しまれる病院を目指します。
- 社会に開かれた医療を行います。



特徴

臨床

人材
育成

研究

診療科名

精神科
児童思春期精神科

許可病床数

473床



「最前線の臨床現場で、
最先端の精神医療を」の
こころざしで信頼される
質の高い精神医療を提供します。

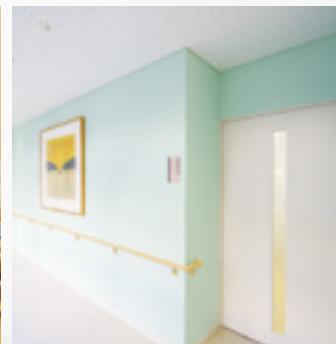
院長 岩田 和彦

大阪精神医療センターは、1926年(大正15年)に開院した90年以上の歴史を有する精神科医療機関です。

大阪府の基幹精神科病院として、統合失調症、躁うつ病、児童思春期精神疾患、依存症、認知症をはじめとする老年期精神疾患など、様々なこころの病の診療に取り組んでいます。多職種チーム医療を展開し、急性期から社会復帰まで切れ目のない治療・支援を提供する診療体制を有しています。

精神科専門スタッフの教育・研修にも力を注いでおり、人材育成を通じて医療水準の向上にも貢献しています。2020年には「こころの科学リサーチセンター」を開設、精神医学に関わる様々なレベルの医学研究を遂行し、精神医学の発展に寄与してまいります。

時代や社会のニーズに合致した質の高い精神医療の提供に向け、職員一同努力を重ねて参りますので、一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



許可・承認等

精神科緊急救命指定病院

応急入院指定病院

特定診療災害医療センター

大阪府災害拠点精神科病院

医療観察法指定入院医療機関・通院医療機関

依存症治療拠点機関

臨床研修指定病院

(一社)日本専門医機構

精神科専門研修プログラム基幹研修施設

(公社)日本精神神経学会

精神科専門医制度研修施設

(一社)日本精神科看護協会指定実習施設

日本医療機能評価機構認定病院

他

一人ひとりを尊重し、 心のこもった医療の提供のために

大阪精神医療センターは、大阪府の基幹精神科病院として、高度な専門的知識、技術をもとに、患者さまの権利を尊重し一人ひとりの人生を大切にした、心のこもった質の高い医療サービスを実現します。

外来診療

精神科の幅広い領域にわたって、患者さまの症状に応じた診療治療を行います。
また、退院患者さまのアフターケアを外来診療、訪問看護、デイケア等で実施しています。

統合失調症、うつ病、依存症など、幅広い精神科医療を提供しています。

精神科外来

診療受付時間	初診 午前8時30分～午前11時00分 再診 午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後 4時00分
診療時間	午前9時00分～午後5時30分
休診日	土曜日・日曜日・祝日・12月29日～1月3日



児童思春期精神科外来

紹介予約制



初診は18歳未満で不登校、発達障がい、適応障がい、不安障がい、感情病圏、その他精神病圏などの患者さまが対象です。

デイケア・作業療法・ 訪問看護



デイケア

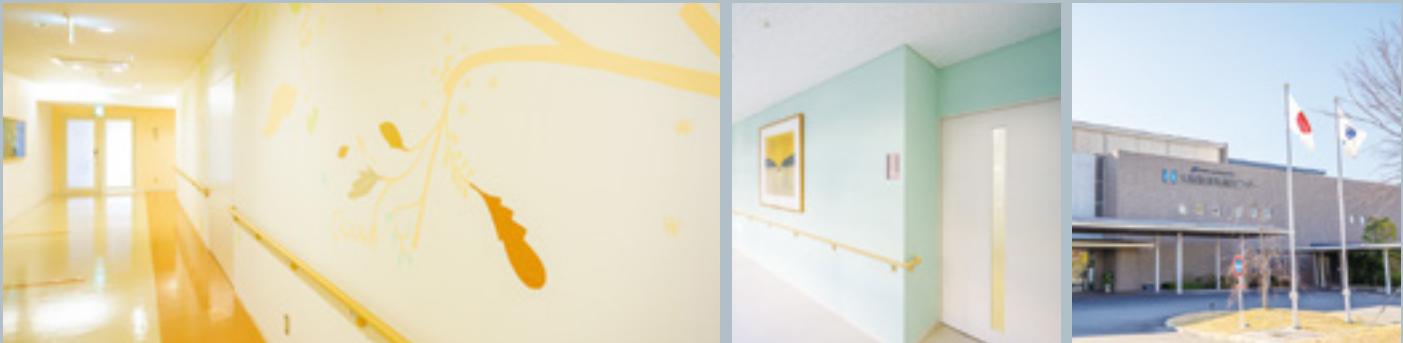
精神科デイケアとは、昼間通所治療といい、医師の指示と指導のもと、昼間の一定時間をプログラムに沿って楽しみながら仲間やスタッフとともに、社会復帰・社会参加を目指しています。6時間のデイケア、3時間のショートケアがあります。

作業療法

作業療法では、私たちが普段の暮らしの中で行っている動作や遊び、仕事など、生活の全般にわたるさまざまな活動を「作業」と呼びます。これらの作業を用いて病気からの回復を促し、その人らしくより良い生活が送れるよう援助していきます。医師の指示に基づき、作業療法士が患者さまの症状に応じた多様な治療を実施しています。

訪問看護

病院を退院された後、あるいは外来通院されている方が安心して治療を継続しながら快適な生活を送ることができるように看護師・ソーシャルワーカー・作業療法士などが、ご自宅に伺って日常生活への支援を行っています。



入院治療

当センターでは、患者さまが安心して治療に専念し、1日でも早く退院できるようスタッフ全員でサポートさせていただきます。患者さまの退院と社会復帰を促進するため、精神療法、薬物療法の他、作業療法や社会技能訓練等の心理社会的治療を取り入れています。医師、看護師をはじめ、ソーシャルワーカー、心理士、作業療法士等、多職種により支援しています。

成人棟



緊急救急、急性期治療、高度ケア、総合治療といった様々な機能を備えた病棟を配置しています。特に、修正型電気けいれん療法(m-ECT)やクロザリルによる治療など病状に応じた積極的な治療を行い、早期の退院に向けて医療を提供しています。各病棟機能は次のとおりです。

4階	西4病棟 (総合治療病棟:50床)	東4病棟 (急性期治療病棟:50床)
3階	西3病棟 (高度ケア病棟:50床)	東3病棟 (総合治療病棟:50床)
2階	西2病棟 (高度ケア病棟:50床)	東2病棟 (高度ケア病棟:50床)
1階	西1病棟 (高度ケア病棟:50床)	東1病棟 (緊急救急病棟:40床)

児童思春期棟は「みどりの森」と呼び、幼児から20歳未満の様々なこころの問題で医療を必要とする子どもたちや家族を対象に外来・入院治療等を行っています。成人棟から独立した構造となっており、明るく柔らかな雰囲気を持たせるとともに年齢に応じた内装を工夫しています。1階の児童ゾーンを「たんぽぽ」、思春期ゾーンを「ひまわり」と呼んでいます。2階には「サンシャイン」と呼ぶ諸室を設け、快適な空間づくりを目指しています。敷地内に大阪府立刀根山支援学校分教室が設けられ、学校教育との連携を行っています。また、「たんぽぽ」は、児童福祉法による医療型障害児入所施設としても位置付けられています。



医療観察法 さくら病棟

33床



「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」(平成17年施行)に基づく指定入院医療機関であり、独立した構造となっています。医師、看護師、ソーシャルワーカー、心理士、作業療法士といった多職種により、患者さまへの継続的かつ適切な医療、観察及び指導を行い、患者さまの病状の改善及び同様の行為の再発防止を図り、社会復帰を目指しています。

人材育成

精神科医療を必要とする人が、安心して必要な時に必要な医療を受けられるためには、精神科医療や精神科医学研究に携わる専門職の育成が不可欠であり、人材育成は当センターの重要な役割の一つです。当センターでは大阪府の基幹精神科病院として、医師をはじめ、看護師や作業療法士などの医療技術者など精神科の専門分野で即戦力となる医療人材の育成に努めています。



大阪精神医療センター 精神科専門医研修プログラム

「目指すのは精神医学の総合医」を合言葉に、幅広い臨床経験に加え、臨床医学研究や精神保健福祉政策も経験できる専門医研修プログラムを実施しています



Point 1

専門医制度(日本専門医機構)においては、精神科領域における府内の数少ない基幹施設として大学病院等と連携し、臨床だけでなく精神保健福祉政策も経験できる充実した専門研修を実施しています。また、初期臨床研修指定病院(連携型)として、さらには児童思春期精神科を志す小児科医師等の独自の研修制度を設けるなど専門医の養成に努めています。

Point 2

保健所や子ども家庭センターなどの行政機関、医療機関の職員を対象とした依存症や児童思春期精神科などの専門的な研修を開催し、各関係機関の対応力の向上を目指しています。

Point 3

看護師をはじめ医療技術者養成機関から学生の臨地実習の受け入れや研修会の実施、講師派遣等により即戦力となる人材の育成に努めています。

地域との連携

地域の医療機関等と連携し、当センターで入院治療が必要な方を受け入れ、適切な医療・生活支援等の提供を行っています。
また、地域で生活が可能となった方が地域で安心して生活できるよう、通院する医療機関や訪問看護等関係機関と連携し地域での生活を支えていきます。



当センターでの入院や治療が必要な方を、地域の医療機関等からの紹介により外来・入院治療がスムーズに行える体制を整えています。

Point 1

当センターに入院されていた方が、地域に戻って暮らしていくよう、訪問看護やデイケア等を含め、地域の医療機関と連携し地域移行がスムーズに行える体制を整えています。

Point 2

地域の医療機関の方を対象として、精神科医療にかかる研修会、症例検討会等を通じて、地域の精神科医療の対応力向上に努めています。

Point 3

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪精神医療センター

こころの科学 リサーチセンター

OPRC Osaka Psychiatric Research Center

新しい精神医学の「共創」～ Collaboration・Innovation・Creation

現代社会のこころの問題に、基礎・臨床・政策効果検証まで含む多角的な研究を実施します。

小児から高齢者まで、すべての人々のこころの健康の増進と、精神医療・保健福祉の向上に貢献します。

医学、脳神経科学、情報科学、心理学、社会福祉など、様々な学問領域と協働する学際的研究を推進します。

T1 診断・治療創生部門

Development of Novel Diagnosis and Treatment Division

認知症ユニット

- 低侵襲の早期診断法の確立など

依存症ユニット

- 依存形成メカニズムの探索など

T2 臨床・社会医学研究部門

Clinical and Public Health Research Division

認知症ユニット

- 認知症予防プログラムの開発など

依存症ユニット

- 新しい依存症治療デバイスの開発など

こころの科学リサーチセンターは、精神医学・神経科学のトランスレーショナルリサーチ（橋渡し研究）を推進する2部門で構成され、各部門はその時代の研究テーマに応じたユニットを構築し研究を遂行します

●大阪精神医療センターにリサーチセンターを開設した理由を教えて下さい

医療では常に「最前線」と「最先端」の役割が求められます。いつでも誰にでも医療を提供し人々の健康を守り続ける最前線としての役割と、難しい臨床課題も解決する高度で新しい医療技術を創り出す最先端の役割、そのどちらも必要で欠かせないものです。

大阪精神医療センターに幅広い精神医療を実践する病院部門に加えて、未知の領域が多い人の心の謎の解明に挑戦する研究部門としてこころの科学リサーチセンターを開設したのはそのためです。私たちはこれらの部門を両輪として、新しい精神医学を創出すべく、最前線の臨床現場で最先端の精神医療を実践したいと考えています。

●専門職の育成にも力を注いでいるとお聞きしましたが

精神医学は臨床医学の一分野にすぎませんが、対象は小児から高齢者まで幅広く、長期間の治療と支援を要する分野です。治療は精神症状を改善させれば済むというものではなく、症状の原因となる脳のメカニズムを探求する基礎医学的

アプローチや、その人の暮らしや心の葛藤にも目を向け、言葉にならない心の声に耳を傾ける心理学的アプローチも必要です。

そのため治療には医学のみならず、脳科学、心理学、社会科学、社会福祉など、様々な学問領域の叡智を結集しなければなりません。それゆえ、この分野で働くスタッフには、他者への深い共感性と洞察力、心の病をもつ人に寄り添う温かさ、他の職種を尊重し協働し合える包容力と高い倫理感が求められます。

ですから当院では分野を超えた広い知識と臨床技術を身につける教育研修プログラムを提供しています。例えば、若手医師に対する専門医研



修プログラムでは、当院で多彩な症例の治療経験を積むことに加え、連携先の大学で精神疾患の病態を解明する最先端の医学研究に従事したり、また精神保健福祉センターで行政が担うべき役割を学び、市民のメンタルヘルスの向上のための事業に関与する等、広い視点で精神医学を学べるように工夫しています。

●大阪精神医療センターの目指す「共創」とは何でしょうか

新しい精神医学の「共創」—これが私たち大阪精神医療センターの目指すものです。専門分野を超えて協働し(Collaboration)、これまでにない治療や支援技術を生み出し(Innovation)、未来に役立つ新しい精神医学を創出する(Creation)、それが「共創」であり、そのためにはたゆまぬ努力を重ねていきます。

私たちは神秘的で未知の領域である「脳」と「心」に深い関心を持ち、心の病をもつ人の回復に真摯に取り組む高い志と豊かな感性、そして温かな心をもつスタッフを育て、協働し続けることで、未来の精神医学の発展に寄与していきたいと考えています。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪精神医療センター

〒573-0022 大阪府枚方市宮之阪3-16-21

☎072-847-3261 fax072-840-6206

[大阪精神医療センター](https://pmc.opho.jp/)  <https://pmc.opho.jp/>

